

NEWS

安全衛生研修会

安全衛生規程及び危険予知訓練(KYT)の進め方開催

安全衛生委員会（加山昌弘委員長）では中央労働災害防止協会（中災防）の「企業・業界団体等安全衛生総合支援事業（平成28年度から29年度）」を受け、今年度二回目の総合支援事業として、1月26日（金）午後2時から名古屋国際会議場131・132会議室（名古屋市熱田区）において、参加者66名のもと「安全衛生研修会・安全衛生規程及び危険予知訓練（KYT）の進め方」を開催しました。



講演する中災防
竹平専門役

講演会は「産業廃棄物処理業における安全衛生規程」と題して、中災防中部安全衛生サービスセンター専門役 安全管理士・衛生管理士 竹平英敏氏を講師としてお招きしました。まず「安全衛生規程」とは、①各事業所が作成（文書化）するもの ②事業者としての安全衛生への取組方針を明示するもの ③安全衛生活動を計画的・継続的に実施するためのツールです。規程を策定することにより社内外に対して、安全衛生配慮義務を遂行している証となります。これにより、具体的な活動の指針、労使が一体となる活動、実施すべき項目の明確化、従業員に遵法精神の芽生え、顧客へのPR、の5つの効果が期待されます。具体的な作成作業は、人員規模によって管理体制が異なり、従業員1～9名、10～49名、50～99名、100名～の規模で、それぞれに合わせた法的に必要な安全管理体制の整備が求められます。詳細については配布資料の「産業廃棄物処理業におけるモデル安全衛生規程及び解説」を参照してくださいとのことでした。また、取組を進める上での重点事項は、管理サイクル（PDCA）の徹底、既存活動の尊重を新規活動の付加、重点思考を持った取組、全員参加、活動を維持させる工夫が必要であると講演をまとめました。

参考資料：「モデル安全衛生規程及び解説」
（公社）全国産業廃棄物連合会安全衛生委員会作成



講演する中災防
水野事務長補佐

次に「危険予知訓練（KYT）の進め方」と題して、中災防中部安全衛生サービスセンター事務長補佐 水野 聡氏を講師としてお招きしました。はじめに、K（危険）Y（予知）T（トレーニング・訓練）は主にヒューマンエラー（ウツカリ、ボンヤリ、勘違い、近道・省略行為）による事故・災害防止対策であると説明がありました。KYTの実践による効果は、毎日の繰り返して感受性を鋭くする、問題解決能力を向上させる、安全を確認する集中力を高める、本音の話し合いで実践への意欲を高めることなどを目指しています。演習は2～4名のグループで構成し作業中のイラストを見て、レポートを作成する「KYT基礎4R法」で行いました。（※Rはラウンドの意）

- 1R：現状把握、どんな危険がひそんでいるのか
- 2R：本質追究、危険のポイント
- 3R：対策樹立、あなたならどうする
- 4R：目標設定、私たちはこうする

上記フローに沿って各ポイントを説明してレポートに記載します。イラスト画像（プラットホーム上でコンテナの中に入っているダンボール25箱を台車に移動中）は各社においても日々の作業につき、現実には起こってしまった事例も挙がり、現場に携わるものだからこそ分かる対策が披露され、各グループで白熱した話し合いが行われた後研修会は閉会しました。



グループに分かれて演習